

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病害虫発生予報第6号（9月）

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-41-9513  
ファックス 0561-63-7820

令和7年度病害虫発生予報第6号（9月）

令和7年9月2日  
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量は 平成並 中生の主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量は平成並か少ない	± — ±～—
	紋枯病	平成並	県全域	8月下旬の発生量は平成並 9月の降水量は平成並か少ない	± ±～—
	トビイロウンカ	平成並	県全域	8月下旬の発生量は平成並	±
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	—
	コブノメイガ	平成並	県全域	8月下旬の発生量は平成並	±
	フタオビコヤガ	平成並	県全域	8月下旬の発生量は平成並	±
	斑点米カメムシ類	平成並	県全域	8月下旬の本田での発生量は やや少ない 8月下旬の水田畦畔での発生量は 平成並 8月下旬の水田畦畔での大型種の 発生量は多い	— ± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	＋ ± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	吸実性カメムシ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 予察灯におけるミナミアオカ メムシの誘殺数はやや多い	－ ＋

### ・防除対策

#### 〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

幼虫の寄生を確認したら8月1日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考に防除しましょう。

#### 〔ダイズ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第3号」を参照してください。

### ・留意事項

水田の畦畔雑草において、斑点米カメムシ類のうち大型の種類が発生が多い状況です。詳細は本日発表の「斑点米カメムシ類情報第3号」を参照してください。

弥富市の予察灯ではニカメイガの誘殺数が急増しました。特に、近年被害の多い地域における遅い作型の水稲では被害に注意しましょう。防除対策については8月27日発表の「ニカメイガ情報第2号（水稲）」を参考にしてください。

県内の一部地域のダイズほ場において、ハダニ類による被害が確認されています。9月の気温は高いと予想されており、ハダニ類の増殖に好適な状況が続くと考えられます。ほ場での発生や被害状況に注意しましょう。

ダイズほ場における8月下旬の巡回調査では、シロイチモジヨトウの発生量がやや多い状況でした。8月1日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数はやや多い状況です。今後、ダイズほ場での発生に注意しましょう。詳細は本日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 8月下旬の被害果率は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ± ±
モモ	せん孔細菌病	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない 9月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
	モモハモグリガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
カキ	炭疽病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	うどんこ病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ± +

### ・防除対策

#### [ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

ダニエモンフロアブル、ダニコングフロアブルなどで、収穫期のほ場では収穫前日数に注意して防除しましょう。

#### [果樹共通・カメムシ類]

フェロモントラップによる誘殺数は幸田町で多く、その他の地域では平年並です。カキなどでチャバネアオカメムシが発生しているほ場が確認されています。ほ場をよく観察し、発生を確認したほ場では、収穫前日数に注意して薬剤で防除しましょう。

### ・留意事項

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は、西尾市（ナシほ場）でやや多い状況です。また、豊田市でも発生の多いほ場が確認されています。次世代幼虫によるナシ果実への被害を防ぐため、収穫前日数に注意し、薬剤防除をしましょう。

モモせん孔細菌病が一部地域で発生しています。収穫後の秋期防除を行い、越冬伝染源量を減らしましょう。

ブドウべと病による早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋期防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	前年 11 月下旬の発生量はやや多い 9 月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8 月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8 月下旬の発生量はやや多い 9 月の気温は高い	＋ ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9 月の気温は高い	± ＋
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	キャベツでの 8 月下旬の発生 量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9 月の気温は高い	± ＋ ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9 月の気温は高い	＋ ＋

### ・防除対策

〔キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ〕

本日発表の「ハイマダラノメイガ情報第 1 号」を参照してください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ〕

中齢以降の幼虫では薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期に防除しましょう。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは、分散前の防除が効果的です。8 月 1 日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 5 号」及び「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 6 号」を参考にしてください。オオタバコガは、本日発表の「オオタバコガ情報第 3 号」を参照してください。

### ・留意事項

アブラナ科野菜では、長雨や強風を伴う降雨後には黒腐病や軟腐病などの細菌による病害や、多湿によってまん延しやすいべと病などの発生量が多くなります。農薬は地際部まで丁寧に散布しましょう。害虫による食害痕は細菌による病害の発生を助長するので、害虫の発生がある場合は、殺虫剤も散布しましょう。また、強風を伴う雨等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

ブロッコリー、キャベツにおいて、黒すす病の発生が近年増加しており、注意が必要です。本病は下位葉から上位葉や花蕾へうつり、一度発生が拡大すると防除が困難になります。育苗中は高温多湿を避け、早期発見に努めるとともに発病株は早期に処分しましょう。ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、7 月 2 日発表の「令和 7 年度病害虫発生予察特殊報第 3 号」及び 7 月 16 日発表の「ブロッコリー黒すす

す病情報第1号」を参照してください。

春期にコナガの発生が一部地域で多い状況でした。ほ場での今後の発生状況に注意しましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。8月18日発表の「コナジラミ類情報第1号」も参照してください。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生が目立つほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや少ない	平坦部	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い 9月の降水量は平年並か少ない	± - ±~-
	白さび病	やや少ない	山間部	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い 9月の降水量は平年並か少ない	± - ±~-
	アブラムシ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	+ +

### ・防除対策

#### 〔キク（露地）・ハダニ類〕

コロマイト水和剤やカネマイトフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行きましょう。

#### 〔キク（露地）・ハスモンヨトウ、オオタバコガ〕

中齢以降の幼虫では薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期に防除しましょう。ハスモンヨトウは分散前の防除が効果的です。ハスモンヨトウの防除については、8月1日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。オオタバコガは、本日発表の「オオタバコガ情報第3号」を参照してください。

### ・留意事項

キクの露地ほ場でアザミウマ類が多く発生しており、一部地域ではクロゲハナアザミウマが多く発生しています。クロゲハナアザミウマは他県では一部農薬で薬剤感受性の

低下が確認されているため、同じ系統の薬剤を連用しないようにしましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

#### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台8月28日発表）

〈特に注意を要する事項〉

向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、期間のはじめは降水量の少ない状態が続くでしょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：10% 高 い：80%

〔降 水 量〕 少 ない：40% 平年並：40% 多 い：20%

〔日照時間〕 少 ない：20% 平年並：30% 多 い：50%